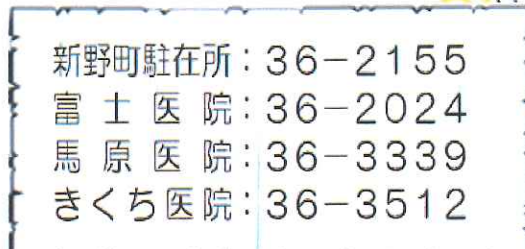


## 新野公民館の道

新野住民センター  
TEL (0884) 36-2001



19

# のんびり歩こう・新野の道

## 阿南健康第10番完歩 新野公民館の道

|              |             |            |         |       |            |       |       |
|--------------|-------------|------------|---------|-------|------------|-------|-------|
| ①新野公民館<br>WC | .....       | ②平等寺<br>WC | .....   | ③室姫神社 | .....      | ④踏切   | ..... |
|              | 500m        |            | 1.1km   |       | 850m       |       |       |
| .....        | ⑤コンビニ       | .....      | ⑥円福寺    | ..... | ⑦八坂神社      | ..... |       |
| 250m         |             | 850m       |         | 1.6km |            | 250m  |       |
| .....        | ⑧善修寺<br>WC  | .....      | ⑨月夜御水大師 | ..... | ⑩新野こどもセンター | ..... |       |
|              | 1.4km       |            | 2.5km   |       |            |       |       |
| .....        | 新野公民館<br>WC |            |         |       |            |       |       |
| 350m         |             |            |         |       |            |       |       |

●**新野の地名** 元々この地は「荒田野」と表記されていた。新野の北の奥山中に「御釜」といわれる小池があり、干ばつの時はここで願をかけると雨が降ってくると言われていた。ある時のこと、村人が病気で困っているところへ、さらに干ばつが襲ってきた。そこで修験者が御釜で願をかけたところ、突然暴風雨になり、ついに大洪水になって、荒田野川筋は大被害をこうむった。村人は、地名が悪いからだと思い、「荒田野」を「新田野」と変えたところ、災害が起らなくなったという。今は「新野」と書くようになっている。

●**平等寺** 平等寺は四国霊場第22番の札所である。寺伝によると弘法大師がこの地で修行中、薬師如来を感得して自らその像を刻んで本尊として伽藍を建立し人々を平等に救うために寺号を平等寺としたといわれている。平等寺の白水は、本堂石段の左から湧き出ている。815（弘仁6）年、弘法大師が新野の大根峠を越えたとき、天に五色の瑞雲がみなぎり、その中に薬師如来が現れた。大師は早速薬師如来像を刻んで本尊とし、加持水を求めて井戸を掘ったところ、乳のような白水が湧き出したという説がある。

●**室姫（むろひめ）神社** 入田傍示と室ノ久保傍示の境にある小山に岡山城があった。『阿波誌』には城の主将が藤原行宗と記載されている。戦国時代に長宗我部元親の軍勢に焼き討ちされ落城した。

この城跡に「岡山さん」と呼ばれる神社があり、木花咲耶姫（このはなさくやひめ）が祀られていたが、1874（明治7）年に室姫（比売）神社と改称された。

●**善修寺** この寺の境内には2間（3.6m）四方の観音堂が北向きに建っている。本尊は十一面子安観音で、身長が約1.3m（4尺5寸）の桧の荒彫りである。この寺の恒例行事に土用の丑の日のキュウリ加持がある。村に疫病が流行った時に弘法大師がキュウリの中に病気を封じ込めて治したという言い伝えがあり、同じ行事は各地で見られる。名前と病名を書き込んだ紙をキュウリの中に封じ込め、キュウリが腐る頃に病気が治るという。

●**御所神社** 御祭神は土御門上皇である。鎌倉時代の1221（承久3）年、後鳥羽上皇が鎌倉幕府に対して倒幕の兵を挙げた兵乱を承久の乱（じょうきゅうのらん）という。土御門上皇は何も関与していなかったので処罰の対象にはならなかったが、自ら申し出て土佐国、阿波国に流された。伝承によると、日和佐の薬王寺に仮御所があり、新野町月夜には土御門上皇を祀った御所神社とその北側に御所屋敷がある。その後、土御門上皇は板野郡土成町御所奥の宮川内谷へ移られ37才で崩御された。

●**お水大師の大杉** 弘法大師が四国の霊場をひらくため、815（弘仁6）年旧3月、夕方ここで一夜の野宿をした。夜が明けるまで三日月があったことからこの地を月夜と称した。この時、弘法大師が薬師如来、不動尊を刻み、この美木を後世に残さんとその残り枝を植えたという。別の説では、大師が突き立てた杖が根付き、大杉になったという。この大杉は全ての枝が一度下を向いてから上に向かっていてところから「さかさすぎ」とも言われている。

●**お水大師の伝説** 月夜の大師庵は、「お水大師」といわれて近郷に知られた霊場である。弘法大師がこの地に來た時、干ばつのため農民は困っていた。弘法大師はこれを知り深く心をいため、杖で山際をつつくと、そこから清水がこんこんと湧いてきた。それを大師の加持水といい、諸病に効力のある霊水となっている。大師が來られた時は8月3日であった。その晩お月見をされていたが、三日月は終夜沈まずに照らし続けていたという。大師は本尊の薬師像を一晩で作ろうと、月が西の山々に沈もうとするのを招き返したといわれる。